

大西洋平外務大臣政務官挨拶

外務大臣政務官の大西洋平です。本日は、御多忙の中、玉城知事、國場幸之助衆議院議員、金城泰邦衆議院議員、中川県議会議長、沖縄経済界を始め、沖縄各界の皆様に県内各所から足をお運びいただきありがとうございます。

高市内閣の始動後、外務省の政務レベルでは初めて沖縄を訪問しております。この機会に、紀谷昌彦沖縄担当大使の着任及び宮川学前大使・現駐アイルランド大使の離任セレブションを開催する運びとなりました。

外務省沖縄事務所は1997年に開設され、それ以降、歴代大使は、幅広い沖縄県民の皆様、米軍関係者の皆様等との対話を重ね、日米同盟を支えてきました。宮川前大使は、歴代最長の3年間の任期を通じて、沖縄の文化や歴史に魅了され、県内各地を訪れ、心と心の交流を重ねてきました。

皆様方の中にも、宮川大使と泡盛やオリオンビールを酌み交わした思い出をお持ちの方も多くいらっしゃるのではないかでしょうか。

16代目の紀谷大使は、先月までASEAN日本政府代表部の大使、また、2015年から2年間、駐南スーダン大使を務めました。それぞれの任地で、日ASEAN関係強化や、南スーダンの平和構築等に尽力してきました。

我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増す中、抑止力の観点から在日米軍は極めて重要な役割を果たしています。その在日米軍の安定的な駐留には、地元の皆様の御理解と御協力が不可欠です。紀谷大使は早速、精力的に活動していますが、是非皆様のお声を共有していただければと思います。

外務省は、沖縄県の若者の国際進出も支援してまいりました。来年3月には、第8回目となる「アメリカで沖縄の未来を考える（TOFU）」プログラムを実施します。本日は、過去のTOFUプログラム参加者もお招きしていますが、TOFUを介して、沖縄事務所と沖縄のパートナーシップが更に強化されることを期待しています

沖縄事務所は間もなく30年の節目を迎えることとなります。時代の変化とともに、より幅広い沖縄県の皆様との交流を通じ、沖縄担当大使・沖縄事務所としても着実にその役割を発展させてきました。今後とも皆様の温かい御支援を賜れれば幸いです。

以上をもちまして、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。